

不登校施策の背景

◆ 国の教育政策

教育機会確保法（H28年12月）

不登校児童生徒への支援の在り方について（R元年10月）

生徒指導提要（改訂版）（R4年12月）

COCOLOプラン（R5年3月）

◆ 奈良市教育振興基本計画

Society 5.0/SDGs時代に対応した子どもの育成

「みずから学ぶ子」「とことん学ぶ子」「つながり学ぶ子」

奈良市の現状

令和5年度に本市で実施したアンケート調査から、

- ✓ **不登校の要因**として「身体の不調」「生活リズムの乱れ」「勉強・授業」「友だちや先生との関係」「学校行事・クラブ活動・学校のルール」など**多様化・複合化**しています。
- ✓ 学校に行きにくいといった悩みを「家族に相談する」という児童生徒の割合が約7割と最も高く、その次に多いのが「学校の先生」や「学校の友達」です。しかし同時に、**家族以外の人に相談することのハードルの高さ**も現れています。
- ✓ 学校に行きづらさを感じている子どもをもつ**保護者の不安感**は高く、そして多岐にわたっています。

基本理念の転換

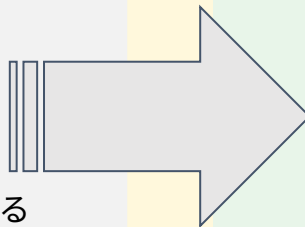
- ✓ 不登校は誰もがなりうることである
- ✓ 学校（通常の学級）復帰のみを支援の目標としない
- ✓ 多様な学びの場を整える必要がある

「不登校支援」から「多様な学び支援」へ



従来の「不登校支援」

- ✗ 不登校を「問題行動」と捉える
- ✗ 学校（通常の学級）が唯一の学びの場
- ✗ 学校（通常の学級）復帰のみを目標とする
- ✗ 対症療法的な支援

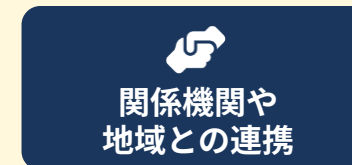


これからの「多様な学び支援」

- ✓ 誰もがなりうる状況として理解
- ✓ 多様な学びの場を認め尊重
- ✓ 社会的な自立を目標とする
- ✓ 個別最適化された継続的支援

不登校は特別なことはありません。それぞれの子どもの実態に応じた**多様な学びの選択肢**を検討し、**社会的な自立に向けたサポート**を行っていきます。

これからの 多様な学び支援に向けて



学校における取組

📌 個別の支援計画の作成

スクールカウンセラー等
専門家との協働アセスメント

個別支援シートの組織的活用

🏠 家庭との連携強化

相談しやすい環境づくり
個別の丁寧なつながりの構築
多様な学びの情報提供

🌱 支援のための組織体制づくり

校内サポートルーム等の整備
オンラインによる学習支援
地域資源との積極的連携

🔍 早期発見／進路支援

スクリーニング活用と早期対応
SOSの出し方教育の充実
多様な進路情報の提供と支援

市教育委員会における取組



教育支援センター・公設フリースクールの機能強化

不登校児童生徒に対する専門的な支援拠点として、心理相談や学習支援の充実
教育支援センター・公設フリースクール運営の充実



保護者支援・教職員研修の充実

保護者の会の実施や情報提供
教職員研修の充実
スクールカウンセラー配置などの相談支援体制の整備



民間フリースクールとの連携

民間フリースクールとの連携による多様な学びの場の確保
学校と支援機関の情報共有体制の整備

学校外の学びに係る指導要録上の出席扱いとする目安について

フリースクール等への通学の場合

- 学校・保護者・フリースクール間の
連携・協力関係の構築
- 支援内容・方法 の明示と適切な支援実施
- 月1回以上の 状況報告 と定期的な連絡
- 支援スタッフの専門性の確保

自宅でのICT等を用いた学習の場合

- 学校と保護者の間の 協力関係の構築
- アセスメントに基づく学習活動の提供
- 月1回以上の 対面による指導・支援 の実施
- ICTツールやプリントなど多様な教材活用

子ども一人ひとりの実態に応じた、社会的な自立を支援することを大切にします